

大阪大学工業会海外交流助成金 「渡航報告」

〔教員の部〕

海外渡航報告

大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻
国土開発保全工学領域 荒木進歩

2010年8月2日から5日までインド南部のチェンナイで開催されたThe Ninth International Conference on Hydro-Science and Engineering (ICHE 2010)に参加し、研究成果を発表した。

ICHEは水理学、水文学、海岸工学、水環境等に関する国際会議で、今回の会議では7件のKeynote Lectureおよび約180編の口頭発表があった。私は最終日の午後のセッションにおいて「Estimation of Expected Repair Cost for Detached Breakwater Repaired with Larger Rubble Stone」という研究題目で、海岸構造物の効率的な補修方法の提案について発表を行った。また、最終日の午前中のセッションでは、Chairpersonとして司会進行を担当した。発表後にはクエスチョンから質問を頂いたが、質疑の時間内では十分に回答できなかったため、セッション終了後にじっくりと議論を行った。

会議全体としてはインドの沿岸域およびインド洋、ベンガル湾等に関する研究発表が多く、これまであまり情報を持っていなかったインドでの海岸工学に関する研究動向を知ることができた。また、インドの学生からは、日本の大学の留学生受入れ事情等についても尋ねられ、旺盛な向学心に触れるとともに、我々も積極的に受け入れていく努力が必要であると感じた。

会場はIndian Institute of Technology, Madras(インド工科大学マドラス校)で、緑が非常に多く、キャンパス内でサルやシカを何度も見かけた。しかし、キャンパスから一步外へ出ると、車、バイク、オート三輪、バスなどによる慢性的な交通渋滞のため、排気ガスがひどかった。なお、この時期、大阪では連日、猛暑日が続いていたようであるが、チェンナイでは最高気温こそ30度を超えていたものの、曇りがちで直射日光が少なく、あまり暑さは感じなかった。

最後に、今回の渡航に際し、助成を頂いた大阪大学工業会に深く感謝いたします。



写真：(左) 会場の様子、(右) インド工科大学マドラス校のキャンパス

海外交流助成金「渡航報告」は、提出されたままを掲載しております。

海外渡航報告

大阪大学大学院工学研究科

知能・機能創成工学専攻

博士後期課程 2 年生 トウ明宇

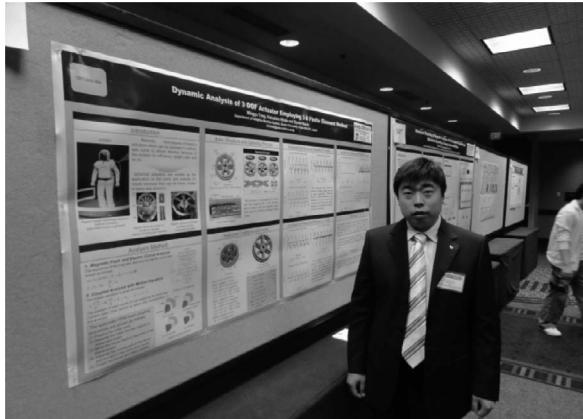
2010 年 5 月 8 日から 12 日までの 5 日間にわたって、アメリカのシカゴで行われた 14th Biennial IEEE Conference on Electromagnetic Field Computation (以下 CEFC2010) にポスター発表で参加した。海外渡航の前、中国からの留学生の私にとって、アメリカビザの申請が非常に難しいので、ずっとビザを受け取れないと思っていたのに、案じたほどでもなく、無事にビザを受け取った。

今年、シカゴの HYATT REGENCY O'HARE ホテルで開催された CEFC-2010 は世界中に電磁場計算方法と応用領域全般の国際会議であるので、非常に多くの各国からの研究者と学生が参加した。初めて国際会議を参加した私において、いろいろな経験も増やさせ、自身の不足なところも明らかに分からせた。例えば、平日英語で外国人の人とコミュニケーションができると思うのに、実際に今回の国際会議中に他の発表者が話している内容の約半分は聞き取れない。しかし、発表者のポスターを見れば、ほとんど理解できる。また、自信も他のポスター発表を見回り、多くの情報を得て、必要なデータを写真で保存した。多少の困難はあったものの、英語で討論する機会がたくさんあった。私の発表はポスター発表であった。題目は“Dynamic Analysis of 3 DOF Actuator Employing 3-D Finite Element Method”、

三自由度球面アクチュエータを開発するため、実際の現象に近い解析手法の開発である。多くの研究者が訪れ、興味を示してくれた。ポスター発表の時、英語、日本語や中国語で他の研究者からの質問を応答し、非常に大切な経験をもらった。

謝辞

今回の海外渡航、国際会議参加に当たり、海外交流助成金を援助して頂きました大阪大学工業会に深く感謝致します。また、今後研究の方がもっと努力していくと思います。



写真：(上) 学会会場 (下) ポスター発表

海外渡航報告書

環境エネルギー工学専攻 博士後期課程 2 年

杉浦 寛和

【参加会議名】 18th International Conference on Nuclear Engineering (ICON18)

【開催場所】 Xi'an, China

【開催期間】 May 17-21, 2010

大阪大学工業会海外渡航助成の援助を受け、ICON18に参加した。ICON18はアメリカの機械学会と日本の機械学会が中心となって毎年開催されている国際会議であり、会議では、低炭素社会の実現に向けた原子力研究開発の現状と原子力発電の安全性について議論が行われる。ICON18は、中国の都市の1つである西安市内のホテルで行われた。会議では、初日は Workshop や Pre-meeting が行われ、2日目に Opening Ceremony、全体セッション、それ以降に口頭発表が行われた。私の発表日は20日の朝に予定されていた。以前国際交流のイベントで知り合った中国人学生が本会議に参加しており、1年ぶりに会うことことができ、1年間での勉強面、生活面での変化について話す機会があり、楽しい時間を過ごすことができた。そして発表日の朝を迎えた。海外での口頭発表が初めてであった私は、朝起床してから発表内容と資料を確認しながら反芻し、発表会場へと向かった。私の発表内容は、液体リチウム噴流の流動挙動に関するものであった。私は、苦手な英語に苦戦しながら15分の発表を終えた。質疑応答では、質問者の満足のいく回答を出来ずに英語でのコミュニケーションに課題を残す結果となった。発表終了後、私はなれない発表から解放されて緊張の糸がきれたのかどっと疲れがきて、その日はホテルで休むことにした。最終日は、ほとんどの日本人学生は兵馬俑などを見に観光へと出かけっていったが、すでに1度行ったことのある私は、会議に出席し、翌日の22日の朝日本への帰路に着いた。

今回の渡航では、海外で口頭発表をするという貴重な経験だけでなく、日本や中国などの学生との友好的なコミュニケーションを図ることができた。このような渡航の機会を与えてくださった大阪大学工業会の支援に深く感謝します。



中国市街地



発表会場の様子

海外渡航報告書

工学研究科 知能・機能創成工学専攻

博士後期課程 1年 笹本 勇輝

2010年6月18日から28日まで、シンガポールで開催されたRoboCup 2010に参加した。RoboCupとは、ロボットの国際的競技会の一つであり、ロボットにサッカーを行わせるタスクを通じたロボットの知能化技術向上を目指して、1997年より毎年開催されている。ロボットの形態によって小型、中型、ヒューマノイド、など様々なリーグがあり、私は2年前から、ヒューマノイドリーグに参加している。

競技会は6日間に渡って開催された。最初の2日はセットアップにあてられ、3日目から本試合が始まった。本年度の参加チームは24チームであり、各チームがリーグに分かれて試合を行い、その上位のチームが第2ラウンド、決勝トーナメントへと進むことができる。私たちのチームは、第1ラウンドはなんとか2位通過し、第2ラウンドへ進出することができた。しかしながら、第2ラウンドで敗退してしまい、決勝トーナメントへの進出には至らなかった。敗退した後は、他のチームの試合を観戦したり、交流したりすることで、システム改良に向けての情報収集に専念した。最終的に、1位、2位はドイツのチームが独占し、ロボット技術力の高さを示していた。しかしながら、3位は日本のチームが獲得しており、日本の技術力の高さも示している。今後は、日本国内においてだけでも、より交流を深め、切磋琢磨することで、日本の技術力向上に貢献していきたい。

RoboCupの競技会期間が終わってからは、シンガポールの市内を観光し、マーライオンやセントーサなどの名所を巡った。シンガポールでの主な交通手段はタクシーであるが、料金は非常に安く、また、名所間の距離もあまり遠くないので、少ないお金、時間で非常に満喫することができた。

最後に、今回の海外渡航において、大阪大学工業会から助成金を受けました。ここに、深く感謝の意を示します。



試合の様子



シンガポールの様子